

をもてよめるもの也、媵は嫂に同じ嫁媼は心得がたし略中爾雅注に、生曰妻死曰嬪太宰氏曰延年書云、嬪于虞詩云、聿嬪于京周禮有九嬪之官此猶謂兄爲舅妹爲媼非死生之異稱矣

〔釋親考〕子之妻爲婦、長婦爲嫡婦、衆婦爲庶婦、

胤按禮内則介婦請於冢婦鄭康成曰以其代姑之事介婦衆婦卽此謂嫡婦庶婦也

〔枕草子四〕ありがたきもの

まうとにほめらるゝむこ又まうとめにおもはるゝよめのきみ

〔安齋隨筆後編一〕秋茄子 秋茄子、媵にくはせぬ歌、秋なすびわさゝのかすにつけませて、媵には

くれじたなにおくとも、夫木集にあり、予按に養生編に、茄子性寒利多食必腹痛下痢、女人能傷子宮也と、これによる歌なるべし、按に、茄子味佳なり、姑たるもの媵をにくみてくはすまじきと云

ふ意なりと解くは、捧腹すべし、わさゝは早酒なり、新酒也

〔理齋隨筆二〕の媵の捨所

六あみだ媵の噂の捨處といへる川柳點の句あり、近き頃彼岸中に六阿彌陀へ參詣せし道すがら、老婆三四人連にて、おのゝ媵の噂よしあし取々に罵りあり、川柳點は實にもと心に感じたれど、餘り憎氣なるゆゑに、予賀忍老婆に向ひて、扱いづれもは、けふ後生參り罪ほろぼしのために出たるならん處を、斯く媵の噂を念佛に換らるゝは、かへつて罪深かるべし、殊には嗔恚をもやし、身の養生にも悪しかりなん、けふばかりは曲て、心ゆたかに參詣あれと申ければ、老婆共聊受がはずして曰、いやゝ左様の事に候はず、我々事宿許にて申度事は數々なれど、それをこらへて口に出さぬ故に、いつとても胸ふさがり居るなり、けふは彼岸の功德なるまゝ、むねに溜置たるを晴さん爲に、かくは語り、合候事なり、是また阿彌陀の御影なりと存れば、罪亡しならんとて、ますます噂して止まず、是等は柄をすげたる理屈、かだましき事、そふじて婦人の心根、みな